

千年の森便り No.261

2025.11.5

ちば千年の森をつくる会

<http://sfuku.cloudfree.jp/>

代表 福島成樹

sennennomori@hotmail.co.jp

活動の記録

10月25日（日）天候 雨時々曇り

公開行事として、秋のきのこ観察会を開催しました。連日の天候不順で天気を心配していましたが、当日は朝から雨、もしかしたら午前中に曇りの時間があるかもしれないと期待して集合場所へ。

集合時も小雨が降っており、欠席の方も何人かいらっしゃるかと思っていたら、欠席はなし！改めてきのこ観察会の人気を確認しました。

全員で豊英島に移動して12時頃までのきのこの採取を行い、午後は屋根のある場所をお借りして、吹春講師と中島講師に採取したきのこの解説をしていただきました。参加者は、吹春講師ご夫妻、中島講師、一般参加者が21名、会員は秋元、大原、片野、坂本、福島の5名、計29名でした。天気はイマイチでしたが、ご参加いただいた皆さんにはきのこの観察を楽しんでいただけたようで良かったです。（福島）



小雨の中駐車場に集合



開会と日程説明



吹春講師ご夫妻



吊り橋を通過して豊英島へ



広場で豊英島の説明



キノコ採取スタート



みんなできのこを探します



中島講師

○吹春先生による軟らかいきのきのこの解説

吹春先生からは、「顕微鏡を使わない、やわらかいきのきのこのわけかた」という、千葉県で見られる代表的なきのこを主に胞子の色で分けた資料に基づき解説がありました。胞子が白いベニタケの仲間は、チチタケ、ハツタケなど歯ごたえがないきのこですが、外生菌根菌と言って樹木と共生して森をつくっている重要なきのこ。この森はブナ科（コナラなど）が多く、ベニタケの仲間が多い。また、数が多いが名前がつかない。きのこの色は、白、黒（クロハツ）、赤、黄色（ウコンハツ）などいろいろ。乳液が出るものは千葉県ではハツタケが有名、今回はトビチャチタケが採れた。名前がつかないグループなので、ルスラ（ベニタケ属）、ラクタリウス（チチタケ属）という名前を覚えておくと、「これはルスラ属ですね」という具合に、知っているかのような発言ができる。ヒラタケの仲間は、柄が偏心しているものが多い。夏はウスヒラタケ、冬はヒラタケが出る。千葉では冬にヒラタケ

の大きなものが採れる。又メリガサ科のアカヤマタケの仲間は派手な色が多い。ヒダが厚くて蠟質なのが特徴で、変色するものはアカヤマタケ。又メリガサ属ではサクラシメジが採れた。このきのこは最近ほとんど見なくなった。キシメジ科ではミネシメジ（石鹸臭があり、触ると赤くなる）、オオニガシメジ（これまで名前がつかなかったもの、苦い）が採れた。今回は採れなかったが、バカマツタケもこの仲間。ニセとバカは出るが本物は出ないというのが千葉県のマツタケ事情です。ナラタケの仲間は研究の進展で 10 種類くらいに増えた。木材腐朽菌で、このナラタケを食べるのがランの仲間のツチアケビです。ツエタケの仲間も、昔はツエタケとピロードツエタケの 2 種類だったが、今は 10 種類くらいに分けられている。今回は、アミヒカリタケ（白い小さなきのこで傘の裏が網目状、発光する）が採れた。千葉県で採れる発光するきのこは、アミヒカリタケ、ヤコウタケ、シイノトモシビタケの 3 種類が確認されている。アミヒカリタケは南方系のきのこで県北では見られず、この秋の遅い時期、内陸の千年の森で採れたのはめずらしい。クヌギタケの仲間では、大根臭がするサクラタケ、赤い汁が出るチシオタケが採れた。テングタケの仲間では、テングタケ（毒）、サトタマゴタケ（昔はタマゴタケとしていたが、本当のタマゴタケはもっと標高の高いところに発生し美味しいらしい）、コテングタケモドキ（傘に条線がない、毒きのことしてされているが中毒例はない）、ツルタケとオオツルタケはよく似ているが、オオツルタケはヒダに縁取りがある。猛毒のドクツルタケとされていたものは、現在では名前がついておらず、本当のドクツルタケは別のものだそうです。ミヤマタマゴタケ（食べられる）は、2 重のツボがあり傘に条線があるのが特徴。タマシロオニタケ（猛毒）は根元がかぶら状になっている。テングタケの仲間には、アマニタトキシソという猛毒を持つものがあるので注意が必要。ハラタケの仲間（ハラタケ属）は胞子が白色系と褐色系があり、褐色系の代表的なものはマッシュルーム。イッポンシメジの仲間は胞子がピンク色で、食べられるウラベニホテイシメジ、ウラベニホテイシメジによく似ていて中毒を起こすクサウラベニタケがこの仲間。胞子が鉄サビ色のフウセンタケの仲間も名前がつかない。キンチャフウセンタケは、傘、柄が繊維状になっているのが特徴。チャツムタケの仲間では、オオワライタケが有名。モエギタケの仲間では、毒のニガクリタケが採れた。昔はかじって苦いことを感じてもらっていたが、最近ではそういうことができなくなってきたとのことでした。ほかにもいろいろ解説をしていただきました。ありがとうございました。（福島）



ウコンハツ



ベニタケの仲間



ベニタケの仲間



アミヒカリタケ



ダイダイガサ



ホウキタケの仲間



ミネシメジ



フウセンタケの仲間



ホウライタケの仲間



オオツルタケ？



オオニガシメジ



ナラタケの仲間

○中島先生による硬いきのこの解説

中島先生からは、初めに、まだ日本からは見つかっていない、フジのツルに着く小さいきのこ、フェオソレニアについて話がありました。これは、南米やニュージーランドで記録されているもののようです。皿のように見えるひとつひとつが別の個体とのことです。ホウキタケの仲間がたくさん採れましたが、名前がつかないうえに毒（強くはない）のものが多いそうで、地元で食べられているものに限っては食べても大丈夫だろうということです。フジウスタケに似たウスタケの仲間も名前がつかない。ノウタケは新しいものは中が白いが、茶色になったものは孢子がたくさんできている。ホコリタケはつまむと孢子が飛び



フェオソレニア

びました。昔はこの孢子を吸い込むと耳が聞こえなくなるなどの迷信もあったのですが、そのようなことはないそうです。ただし、過敏性肺炎の一種であるリコペルドノーシスを引き起こすことがあるので吸いすぎには注意が必要です。ホコリタケやツチグリの仲間は、雨の衝撃で孢子を飛ばすそうです。ハナビラニカワタケ属の仲間が採れました。この仲間のシロキクラゲは中国料理の高級食材として栽培されており、クロコブタケに寄生するのでクロコブタケと一緒に栽培するそうです。カワラタケは非常に観察数が多いきのこで、実際にはその中に複数種が含まれている可能性があります。硬いきのこは腐朽菌が多いですが、チャハリタケは菌根菌です。硬いきのこは研究が進んでいないため、名前がつくものが多いですが、研究が進むと名前がつかなくなることで多く、ハカワラタケは分類が大混乱している状況です。外観からの見分け方としては傘の裏がポイントで、穴がまん丸なのはクジラタケ、穴が角ばるのはホウロクタケ、ウロコタケの仲間は穴が見えません。アセハリタケは裏が針状です。アセハリタケは南方系のキノコで、最近よく見られるようになってきたそうです。ニクウスバタケは裏が薄刃のようになっています。コウモリタケは神奈川県ではあまり採れないきのこです。オオミダレアミタケは、先週、市原市のクオードの森でも見つかりました。サガリハリタケは孢子をつくる時に針状になるようです。子嚢菌としては、ニセキンカクアカビョウタケ（橙色の小さい鉢状のきのこ）、フユノウスキサラタケ（小さい皿状のきのこ）がありました。子嚢菌はカビときのこを含みますが、カビ、きのこは人間が大きさで分けたもので、これらは一つの大きなグループに入るものです。ほかにもいろいろ解説をしていただきましたがメモが間に合いませんでした。ありがとうございました（福島）



同定会場のきのこ



近い仲間をまとめる



これはどこかな～



採れたきのこの解説



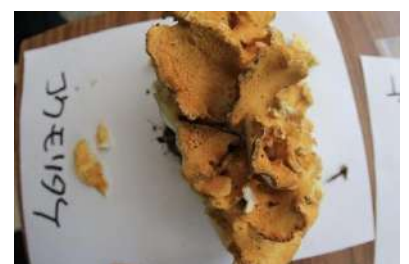
ニクウスバタケ



サガリハリタケ



ホウロクタケ



コウモリタケ

〇きのこリスト

中島講師から提供いただいた 124 件のきのこリスト（抜粋）を末尾に掲載しました。

Inaturalist の掲載ページはこちらです。

https://www.inaturalist.org/observations?q=Toyofusa202510&search_on=tags

〇とても有意義な講義と体験でした（平野光男さま）

木更津市在住で、実家は君津市の松丘というところで、田舎での田畑の管理等をしています。今日は、実家から車で 15 分ほどで参りました。豊英島には 2 度 3 度来ていますが、きのこ観察会には初めて参加しました。とても楽しかったです。

小雨交じりでしたが、観察会中は雨に降られず、現地できのこを探すにも、群生しているところはなく、ぽつぽつと出ている状態で、今日は収穫が少ないなあと思っていました。しかし、テーブルに広げられたきのこはざっと 80 種以上、白、茶、黄、黒、赤と多色で分類されており、自分で歩いた個所になかったものばかりで驚きました。また、硬いきのこの分類があり、かつ 1、2 ミリのすごく小さいキノコの説明もありました。



テーブルにのったきのこ

吹春先生のきのこの分け方で学名を使用した覚え方の利用方法、はっきり区分されるとの説明、とても分かりやすく、分かったような気がして、まず、最初の説明のベニタケ科に興味が湧きました。中島先生のお話では硬いきノコの説明、初めて聞き、絶対に食することはないから、取らないでよいと思っていましたが、観点が違い面白いと思いました。

今回、神奈川県や茨城県、千葉県北部の遠い場所から多くの参加者があったようで、皆さん目を輝かせて聞き入り、質問をされていました。きのこの区分方法が変わったこととか、きのこの進化と取り囲む人の進化等短時間でしたが、とても有意義な講義と体験でした。

また、観察会が開催されるようでしたら、参加したく知り合いにも声掛けします。ちば千年の森をつくる会のスタッフのみなさん、参加者の皆さまありがとうございました。

〇植生ならぬ菌生の豊かさに驚きました（福山玲子さま）

先日は大変お世話になりました。豊英の読み方さえも知らずに参加してしまいましたが、初めて出会ったきのこがたくさん！文字通り植生ならぬ菌生の豊かさに驚きました。翌日も横浜で観察会があったのですが、きのこの種類の違いが改めて感じられました。

また、限られた時間内での会の進め方も勉強になりました。吹春先生の解りやすい説明に至るまでの関係者のかたのチームワークが素晴らしかったです。お土産にいただいた冊子からも、ちば千年の森をつくる会の活動がよく伝わってきました。またの機会にもぜひ参加させていただきたく、よろしくお願いいたします。



〇とても解りやすくキノコ🍄の楽しさを教えていただきました（高田静子さま）

以前活動していた新井通子さんから、千年の森のすばらしさを伺っておりました。今回、中島先生にお願いして、やっと訪れる事が出来ました。私の気に入ったキノコ🍄は、サクラシメジ、アカヤマタケ、クロラッパタケ等。吹春先生の資料とお話しは、とても解りやすくキノコ🍄の楽しさを教えていただきました。

会の皆様には大変お世話になり心より感謝致します。又、次回の観察会を楽しみにしております。ありがとうございました😊。

○豊かな森を感じ嬉しくなりました（吉川節子さま）

千年の森に初めて参加させて頂き興味深かったことは、長いつり橋を渡り豊英島へ一歩足を踏み入れた時にまず土のふかふかした感触とうっそうとした木々から漂う空気感に、豊かな森を感じ嬉しくなりました。横浜では見ることのないミネシメジ、また沢山のテングタケの仲間、ホウキタケの仲間他、が見られました。

吹春先生、中島淳志様、千年の森の皆様、多くの皆様のおかげで貴重な一日を過ごすことができました。ありがとうございました。



○吹春先生に久しぶりにお会い出来た（弘田久美子さま）

神奈川から参加させていただきました。つり橋を渡って減多に入れない場所でのキノコ観察は特別感もあり楽しかったですし、吹春先生に久しぶりにお会い出来たのも嬉しかったです。色々ありがとうございました。

頂いたお野菜が新鮮でとても美味しかったです。また機会があれば宜しくお願いします。

○植物、昆虫、鳥などの観察会にも参加したい（佐野仁子さま）

豊英島には初めて入らせていただきましたが、ほぼ手つかずの森で人の出入りが少ない分、踏みつけも少なく、落ち葉の下に菌類が生きて暮らしている様子が見て取れました。機会がありましたら、是非またキノコのみならず、植物、昆虫、鳥などの観察会に参加出来ればと思っております。

地元の野菜もたくさんお土産にいただき、ありがとうございました。寒い日でしたので、鍋ものにして美味しくいただきました。「ちば千年の森をつくる会」の今後益々のご発展を応援いたしております。

○心身ともにリフレッシュする時間を持つことができました

やや肌寒く小雨の降るなか、「ちば千年の森をつくる会」が主催する秋のきのこ観察会が行われました。会場となった豊英島の森では、色とりどりのきのこが顔を出し、参加者の目を楽しませてくれました。さらに、専門家の先生方の丁寧な解説により、きのこの種類や特徴、生態系における重要な役割などを学ぶことができ、自然の奥深さに触れる貴重な機会となりました。普段は見過ごしてしまうような小さな存在にも、森の中で重要な役割があることを知りました。参加者は博識の小学生から大人まで幅広く、和やかな雰囲気の中で交流も生まれ、地域の自然を通じた学びとふれあいの場として大変有意義で、森を歩きながら季節の移ろいを感じ、心身ともにリフレッシュする時間を持つことができました。今後もこのような活動を通じて、地域の自然環境への理解と関心を深め、千年先の森づくりに貢献していきたいと思っております。（片野）



○きのこを楽しむ

きのこ観察会に始めて参加したのは2016年です。9年の歳月が過ぎましたがなかなか目利きにはなれません。森を歩いていて野生のきのこ（タマゴタケ、アミガサタケ、イグチの仲間、テングタケの仲間など）に出会うとワクワクします。見分けられる『きのこ』もわずかですが増えてきています。その分楽しさも増しました。名前のつかないきのこもたくさん存在しているということも分かってきました。腐生、共生、内生菌根、外生菌根等々難しい専門用語も観察会に参加するたびに耳にし、きのこの生態が少しずつ理解できるようになってきました。

きのこは植物よりも動物に近い生物だということですが感覚的には植物です。スーパーマーケットでは肉類の置き場ではなく、野菜類の置き場にありますが。

エミール・ガレの『ひとよ茸ランプ』、ディズニーの白雪姫に登場するベニテングタケはとても魅力的な存在です。あの『きのこ』のフォルムは多くの人を引き付ける重要な要素です。それでもやはり、きのこは食べてこそそのものです。野生のきのこを食するにはまだまだ高いハードルがあり、きのこの達人たちと一緒にのしただけ食べます。ひとりでは野生のきのこに挑戦は出来ません。まずはもっとフィールドを開拓し経験を積む必要があります。他県ではクマにより行動制限がなされています。その点いつでも山に入ることができる千葉県は安心して行動できます。見てよし、食べてよし、森の掃除屋として大活躍のきのこは奥深く興味の尽きない対象です。この観察会を機にもう少し行動範囲を広げてみようかと思えます。今はまだ通販のヒラタケの菌床やエリンギの菌床、ナメコの菌床などで楽しみたいと思います。(秋元)



〇ハイテンションの声があちこちから聞こえて大にぎわい

きのこ観察会当日は家を出る時から霧雨でした。雨だからと言ってきのこが蒸発して消えてしまう訳ではないし、乾燥してひび割ればかりより水分を含んでしっとりとした姿が見られるので小雨は悪い条件ではありません。

雨を承知の上で参加の強者は長靴に雨合羽の着用など装備は万全ですから採集に問題ありません。ただし同定会場は種名を記入した紙が濡れて破れては困ります。島内に雨除けの出来る場所はありませんが、木のふるさと館の附属施設が借りられたので同定会場の問題も解決できました。



初めて島に入る人達は横揺れの吊り橋に恐々の表情でしたが、島内に一步はいると足元にホウキタケの仲間が出迎え、広場に至る小径の左右にも色々なきのこが発生しているのでやる気満々の顔になっていました。猫に鯉節の状態ですから、つい左右の林内に入ってしまう、打ち合わせ場所の千年広場に到着するまで予想外の時間を要したのも仕方ないことです。

島内では 12 時までを採集時間とし、分散してきのこ探しが始まると、「あったー!」、「ここにもあるよー」、「キャーでかい」、「かわいー」、「きれいー」などハイテンションの声があちこちから聞こえて大にぎわいでした。

同定会場に持ち込まれたきのこの量は相当なもので、種類ごとの仕分けがいつ終わるか分からないので、13 時には仕分けを中断して解説の時間としました。遠来のお客さんも満足されたのではないのでしょうか。

ご指導の両先生、食事もそこそこで大変だったと思います。いつもありがとうございます。(坂本)

〇次回の定例活動は 11 月 16 日（日）です。

植生保護柵設置補修、ホテイ岬地区整備、危険木伐採等を予定しています。

ダニ対策、ヘルメットを忘れずに。

集合場所が変更になりますのでご注意ください。

房総クロスヴィレッジ

<https://maps.app.goo.gl/hFKVg4mXncQZJuyU6> (35.218558228172604, 140.02542152712238)

以前の集合場所から豊英島方向に進み国道から左に入ったところです。

集合は 9:30 です。お間違いのないように！

中島淳志講師から提供いただいた採種リストの抜粋（1）

	和名	学名	科	FAMILY	属	GENUS
1	アオシメタケ	<i>Cyanosporus caesius</i>	ボスティア科	Postiaceae	Cyanosporus属	Cyanosporus
2	アカキツネガサ	<i>Leucoagaricus rubrotinctus</i>	ハラタケ科	Agaricaceae	シロカラカサタケ属	Leucoagaricus
3	アカコブタケ属	<i>Hypoxylon</i>	アカコブタケ科	Hypoxylaceae	アカコブタケ属	Hypoxylon
4	アカヤマタケ	<i>Hygrocybe conica</i>	ヌメリガサ科	Hygrophoraceae	アカヤマタケ属	Hygrocybe
5	アカヤマタケ属	<i>Hygrocybe</i>	ヌメリガサ科	Hygrophoraceae	アカヤマタケ属	Hygrocybe
6	アセタケ科	<i>Inocybaceae</i>	アセタケ科	Inocybaceae		
7	アセハリタケ	<i>Donkia pulcherrima</i>	マクカワタケ科	Phanerochaetaceae	Donkia属	Donkia
8	アミヒカリタケ	<i>Favolaschia manipularis</i>	クヌギタケ科	Mycenaceae	ラッシュタケ属	Favolaschia
9	アンズタケ目	<i>Cantharellales</i>				
10	イッボンシメジ属	<i>Entoloma</i>	イッボンシメジ科	Entolomataceae	イッボンシメジ属	Entoloma
11	イボタケ属	<i>Thelephora</i>	イボタケ科	Thelephoraceae	イボタケ属	Thelephora
12	イボタケ属	<i>Thelephora</i>	イボタケ科	Thelephoraceae	イボタケ属	Thelephora
13	イボタケ属	<i>Thelephora</i>	イボタケ科	Thelephoraceae	イボタケ属	Thelephora
14	ウコンハツ	<i>Russula flavidia</i>	ベニタケ科	Russulaceae	ベニタケ属	Russula
15	ウスタケ	<i>Turbinellus floccosus</i>	ラッパタケ科	Gomphaceae	ウスタケ属	Turbinellus
16	ウチワタケ	<i>Microporus affinis</i>	タマショレイタケ科	Polyporaceae	ツヤウチワタケ属	Microporus
17	ウラベニガサ属	<i>Pluteus</i>	ウラベニガサ科	Pluteaceae	ウラベニガサ属	Pluteus
18	ウラベニホテイシメジ	<i>Entoloma sarcopum</i>	イッボンシメジ科	Entolomataceae	イッボンシメジ属	Entoloma
19	オオゴムタケ	<i>Trichaleurina tenuispora</i>	キリノミタケ科	Chorioactidaceae	トリカレウリナ属	Trichaleurina
20	オクバタケ	<i>Radulomyces molaris</i>	アカギンコウヤクタケ科	Radulomycetaceae	アカギンコウヤクタケ属	Radulomyces
21	オシロイタケ	<i>Tyromyces chioneus</i>	インクラストボリア科	Incrustoporiaceae	オシロイタケ属	Tyromyces
22	オニイグチ属	<i>Strobilomyces</i>	イグチ科	Boletaceae	オニイグチ属	Strobilomyces
23	カタツブタケ属	<i>Rosellinia</i>	クロサイワイタケ科	Xylariaceae	カタツブタケ属	Rosellinia
24	カバイロツルタケ（広義）	<i>Amanita fulva</i>	テングタケ科	Amanitaceae	テングタケ属	Amanita
25	ガマノホタケ属	<i>Typhula</i>	ガマノホタケ科	Typhulaceae	ガマノホタケ属	Typhula
26	カワラタケ	<i>Trametes versicolor</i>	タマショレイタケ科	Polyporaceae	シロアミタケ属	Trametes
27	ガンタケ	<i>Amanita rubescens</i>	テングタケ科	Amanitaceae	テングタケ属	Amanita
28	キツネノカラカサ属	<i>Lepiota</i>	ヴェルコスボラ科	Verrucosporaceae	キツネノカラカサ属	Lepiota
29	キヒダタケ属	<i>Phylloporus</i>	イグチ科	Boletaceae	キヒダタケ属	Phylloporus
30	キヒモカワタケモドキ	<i>Rhizochaete radicata</i>	マクカワタケ科	Phanerochaetaceae	ヒモカワタケ属	Rhizochaete
31	クサウラベニタケ	<i>Entoloma rhodopodium</i>	イッボンシメジ科	Entolomataceae	イッボンシメジ属	Entoloma
32	クジラタケ	<i>Trametes orientalis</i>	タマショレイタケ科	Polyporaceae	シロアミタケ属	Trametes
33	クヌギタケ属	<i>Mycena</i>	クヌギタケ科	Mycenaceae	クヌギタケ属	Mycena
34	クヌギタケ属	<i>Mycena</i>	クヌギタケ科	Mycenaceae	クヌギタケ属	Mycena
35	クヌギタケ属	<i>Mycena</i>	クヌギタケ科	Mycenaceae	クヌギタケ属	Mycena
36	クロコブタケ	<i>Annulohypoxylon truncatum</i>	アカコブタケ科	Hypoxylaceae	Annulohypoxylon属	Annulohypoxylon
37	クロハツ	<i>Russula nigricans</i>	ベニタケ科	Russulaceae	ベニタケ属	Russula
38	クロラッパタケ	<i>Craterellus cornucopioides</i>	アンズタケ科	Hydnaceae	クロラッパタケ属	Craterellus
39	コウモリタケ	<i>Polypus dispansus</i>	ニンギョウタケモドキ科	Albatrellaceae	Polypus属	Polypus
40	コケイロサラタケ属	<i>Chlorenchocelia</i>	セナギウム科	Cenangiaceae	コケイロサラタケ属	Chlorenchocelia
41	コタマゴテングタケ	<i>Amanita citrina</i>	テングタケ科	Amanitaceae	テングタケ属	Amanita
42	コツブコウヤクタケ属	<i>Athelia</i>	アテリア科	Atheliaceae	コツブコウヤクタケ属	Athelia
43	コテングタケモドキ	<i>Amanita pseudoporphyria</i>	テングタケ科	Amanitaceae	テングタケ属	Amanita
44	コリビオブシス属	<i>Collybiopsis</i>	ツキヨタケ科	Omphalotaceae	コリビオブシス属	Collybiopsis
45	サガリハリタケ	<i>Radulomyces copelandii</i>	アカギンコウヤクタケ科	Radulomycetaceae	アカギンコウヤクタケ属	Radulomyces
46	サクラシメジ	<i>Hygrophorus russula</i>	ヌメリガサ科	Hygrophoraceae	ヌメリガサ属	Hygrophorus
47	シロオニタケ	<i>Amanita virgineoides</i>	テングタケ科	Amanitaceae	テングタケ属	Amanita
48	スコブロイデス属	<i>Scopuloides</i>	シワタケ科	Meruliaceae	スコブロイデス属	Scopuloides
49	セイタカイグチ	<i>Aureoboletus russellii</i>	イグチ科	Boletaceae	ヌメリコウジタケ属	Aureoboletus
50	セリオボルス属	<i>Cerioporus</i>	タマショレイタケ科	Polyporaceae	セリオボルス属	Cerioporus
51	ダイダイガサ	<i>Cyptotrama asprata</i>	タマバリタケ科	Physalacriaceae	ダイダイガサ属	Cyptotrama
52	タマゴタケ種群	<i>Amanita caesareoides</i>	テングタケ科	Amanitaceae	テングタケ属	Amanita
53	タマシロオニタケ	<i>Amanita sphaerobulbosa</i>	テングタケ科	Amanitaceae	テングタケ属	Amanita
54	タマバリタケ科	<i>Physalacriaceae</i>	タマバリタケ科	Physalacriaceae		
55	チウロコタケ	<i>Stereum gausapatum</i>	ウロコタケ科	Stereaceae	キウロコタケ属	Stereum
56	チシオタケ	<i>Mycena haematopus</i>	クヌギタケ科	Mycenaceae	クヌギタケ属	Mycena
57	チチタケ属	<i>Lactarius</i>	ベニタケ科	Russulaceae	チチタケ属	Lactarius
58	チャウロコタケ	<i>Stereum ostrea</i>	ウロコタケ科	Stereaceae	キウロコタケ属	Stereum
59	チャツムタケ属	<i>Gymnopilus</i>	ヒメノガステル科	Hymenogastraceae	チャツムタケ属	Gymnopilus
60	チャツムタケ属	<i>Gymnopilus</i>	ヒメノガステル科	Hymenogastraceae	チャツムタケ属	Gymnopilus

Inaturalist の掲載ページはこちらです。

https://www.inaturalist.org/observations?q=Toyofusa202510&search_on=tags

中島淳志講師から提供いただいた採種リストの抜粋（2）

	和名	学名	科	FAMILY	属	GENUS
61	チョークアナタケ	<i>Amyloporia xantha</i>	Adustoporiaceae	Adustoporiaceae	Amyloporia属	Amyloporia
62	ツキヨタケ科	<i>Omphalotaceae</i>	ツキヨタケ科	Omphalotaceae		
63	ツチナメコ	<i>Cyclocybe erebia</i>	チャムクエタケ科	Tubariaceae	Cyclocybe属	Cyclocybe
64	テングタケ節	<i>Amanita</i>	テングタケ科	Amanitaceae	テングタケ属	Amanita
65	テングタケ属	<i>Amanita</i>	テングタケ科	Amanitaceae	テングタケ属	Amanita
66	テングタケ属	<i>Amanita</i>	テングタケ科	Amanitaceae	テングタケ属	Amanita
67	トゥブリシウム・カーヴィスボラム	<i>Tubulicium curvisporum</i>	ヒドノドン科	Hydnodontaceae	トゥブリシウム属	Tubulicium
68	トビチャチタケ	<i>Lactarius uvidus</i>	ベニタケ科	Russulaceae	カラハツタケ属	Lactarius
69	ナヨタケ属	<i>Psathyrella</i>	ナヨタケ科	Psathyrellaceae	ナヨタケ属	Psathyrella
70	ナラタケ属	<i>Armillaria</i>	タマハリタケ科	Physalaciaceae	ナラタケ属	Armillaria
71	ニオイハリタケ属	<i>Hydnellum</i>	Sarcodontaceae	Sarcodontaceae	ニオイハリタケ属	Hydnellum
72	ニクスバタケ	<i>Irpex consors</i>	ウスバタケ科	Irpicaceae	ウスバタケ属	Irpex
73	ニクハリタケ	<i>Steccherinum ochraceum</i>	ニクハリタケ科	Steccherinaceae	ニクハリタケ属	Steccherinum
74	ニセホウライタケ属	<i>Crinipellis</i>	ホウライタケ科	Marasmiaceae	ニセホウライタケ属	Crinipellis
75	ヌメリガサ科	<i>Hygrophoraceae</i>	ヌメリガサ科	Hygrophoraceae		
76	ネンドタケ	<i>Fuscoporia gilva</i>	タバコウロコタケ科	Hymenochaetaceae	サビアナタケ属	Fuscoporia
77	ネンドタケモドキ	<i>Fuscoporia setifera</i>	タバコウロコタケ科	Hymenochaetaceae	サビアナタケ属	Fuscoporia
78	ノウタケ	<i>Calvatia craniiformis</i>	ホコリタケ科	Lycoperdaceae	ノウタケ属	Calvatia
79	パイプタケ	<i>Henningsomyces candidus</i>	ポロテレウム科	Porotheleaceae	パイプタケ属	Henningsomyces
80	ハカワラタケ	<i>Trichaptum biforme</i>	タバコウロコタケ科	Hymenochaetaceae	シハイタケ属	Trichaptum
81	ハナヒラニカワタケ種群	<i>Phaeotremella foliacea</i>	フェオトレメラ科	Phaeotremellaceae	Phaeotremella属	Phaeotremella
82	ハラタケ綱	<i>Agaricomycetes</i>				
83	ハラタケ属	<i>Agaricus</i>	ハラタケ科	Agaricaceae	ハラタケ属	Agaricus
84	ハラタケ目	<i>Agaricales</i>				
85	ハラタケ目	<i>Agaricales</i>				
86	ハラタケ目	<i>Agaricales</i>				
87	ハラタケ目	<i>Agaricales</i>				
88	ハラタケ目	<i>Agaricales</i>				
89	ヒイロタケ	<i>Trametes coccinea</i>	タマチョレイタケ科	Polyporaceae	シロアマタケ属	Trametes
90	ヒカゲウラベニタケ属	<i>Clitopilus</i>	イッボンシメジ科	Entolomataceae	ヒカゲウラベニタケ属	Clitopilus
91	ヒナノヒガサ属	<i>Rickenella</i>	ヒナノヒガサ科	Rickenellaceae	ヒナノヒガサ属	Rickenella
92	ヒビコヤクタケ属	<i>Dendrothele</i>	ニア科	Niaceae	ヒビコヤクタケ属	Dendrothele
93	ヒボミクス属	<i>Hypomyces</i>	ボタンタケ科	Hypocreaceae	ヒボミクス属	Hypomyces
94	ヒメカタバンタケ	<i>Skeletocutis nivea</i>	インクラストボリア科	Incrustoporiaceae	ウラベニタケ属	Skeletocutis
95	ヒメカバイロタケ	<i>Xeromphalina campanella</i>	キシロンファリナ科	Xeromphalinaceae	ヒメカバイロタケ属	Xeromphalina
96	ヒメキシメジ	<i>Callistosporium luteo-olivaceum</i>	ヒメキシメジ科	Callistosporiaceae	ヒメキシメジ属	Callistosporium
97	ヒラタケ	<i>Pleurotus ostreatus</i>	ヒラタケ科	Pleurotaceae	ヒラタケ属	Pleurotus
98	フウセンタケ科	<i>Cortinariaceae</i>	フウセンタケ科	Cortinariaceae		
99	フウセンタケ属	<i>Cortinarius</i>	フウセンタケ科	Cortinariaceae	フウセンタケ属	Cortinarius
100	フェオソレニア属	<i>Phaeosolenia</i>	チャヒラタケ科	Crepidotaceae	フェオソレニア属	Phaeosolenia
101	フユノウスキサラタケ	<i>Chlorosplenium chlora</i>	クロロスプレニウム科	Chlorospleniaceae	クロロスプレニウム属	Chlorosplenium
102	ベニタケ属	<i>Russula</i>	ベニタケ科	Russulaceae	ベニタケ属	Russula
103	ベニタケ属	<i>Russula</i>	ベニタケ科	Russulaceae	ベニタケ属	Russula
104	ベニタケ属	<i>Russula</i>	ベニタケ科	Russulaceae	ベニタケ属	Russula
105	ベニタケ属	<i>Russula</i>	ベニタケ科	Russulaceae	ベニタケ属	Russula
106	ホウキタケ属	<i>Ramaria</i>	ラッパタケ科	Gomphaceae	ホウキタケ属	Ramaria
107	ホウキタケ属	<i>Ramaria</i>	ラッパタケ科	Gomphaceae	ホウキタケ属	Ramaria
108	ホウロウタケ	<i>Fomitopsis dickinsii</i>	ツガサルノコシカケ科	Fomitopsidaceae	ツガサルノコシカケ属	Fomitopsis
109	ホコリタケ	<i>Lycoperdon perlatum</i>	ホコリタケ科	Lycoperdaceae	ホコリタケ属	Lycoperdon
110	ポロテレウム・フィンブリアタム	<i>Porotheleum fimbriatum</i>	ポロテレウム科	Porotheleaceae	ポロセラム属	Porotheleum
111	ミネシメジ	<i>Tricholoma saponaceum</i>	キシメジ科	Tricholomataceae	キシメジ属	Tricholoma
112	ミヤマタマゴタケ	<i>Amanita imazekii</i>	テングタケ科	Amanitaceae	テングタケ属	Amanita
113	モエギタケ科	<i>Strophariaceae</i>	モエギタケ科	Strophariaceae		
114	モミジウロコタケ	<i>Xylobolus spectabilis</i>	ウロコタケ科	Stereaceae	カタウロコタケ属	Xylobolus
115	ヤグラタケ	<i>Asterophora lycoperdoides</i>	シメジ科	Lyophyllaceae	ヤグラタケ属	Asterophora
116	ヤマジノカレバタケ	<i>Collybiopsis biformis</i>	ツキヨタケ科	Omphalotaceae	Collybiopsis属	Collybiopsis
117	ユキラッパタケ	<i>Singerocybe alboinfundibulifera</i>	カヤタケ連	Clitocybaceae	シンガロキベ属	Singerocybe
118	ラッパタケ科	<i>Gomphaceae</i>	ラッパタケ科	Gomphaceae		
119	ロアノケンセス節	<i>Roanokenses</i>	テングタケ科	Amanitaceae	テングタケ属	Amanita
120	ロドボリア節	<i>Rhodopolia</i>	イッボンシメジ科	Entolomataceae	イッボンシメジ属	Entoloma
121	ワサビタケ	<i>Panellus stipticus</i>	クヌギタケ科	Mycenaceae	ワサビタケ属	Panellus
122	菌界	<i>Fungi</i>				
123	菌界	<i>Fungi</i>				
124	子嚢菌門	<i>Ascomycota</i>				

Inaturalist の掲載ページはこちらです。

https://www.inaturalist.org/observations?q=Toyofusa202510&search_on=tags